

## 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

大津市立比叡平小学校

教諭 金本 江美子

1 単元名 「豊かな森について考えよう～だいらっこの森を理想の森に～」

### 2 単元の目標

- 学校林の環境や比叡平地域の特色について理解し、森づくりに携わっていただく地域の方に伝わるようにプレゼンすることができる。 (知識・技能)
- これまでの経験や、葛川少年自然の家での森林学習、青い鳥の谷での見学をもとに、地域の子どもから大人まで楽しむことができるための方策を考えたり、考えたことについてプレゼンを通して伝えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現等)
- 比叡平地域の方に楽しんでもらいたいという目的意識を持ち、意欲的に友だちと意見を交流したり、ボランティアの方に分かってもらえるように工夫したプレゼンテーションをしたりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

「だいらっこの森」は、比叡平小学校にある森(学校林)である。ここには、ブランコやターザンなどの遊具、生き物と触れ合える虫の住処や鳥の巣箱、休憩場としてのベンチなど様々なものがある。始めは、何もない森だったが、地域ボランティアの方の協力で森の中を一周できる歩道や階段・手すり、ベンチなどが設置された。毎年、第3学年にて「森と仲良くなろう」の学習で木の種類や木の働きについて学習し、第4学年にて「豊かな森について考えよう」の学習として学校林の向上を考える活動に取り組んでいる。すでに設置されている遊具もこれまでの先輩が企画してできた成果物である。そんな「だいらっこの森」は、毎週火曜日が開放日となっており、多くの児童が生き物探しをしたり、遊具で遊んだりしている。

第3学年での「森と仲良くなろう」の学習を活かし、「だいらっこの森」との関わりを児童自ら設定してつくることで、学校林「だいらっこの森」を題材としてそのよさに気づかせることができ、地域に対する愛着をさらに高めることができる。また、地域の比叡山里山俱樂部が運営されている「青い鳥の谷」で森の比較を行ったり、森林学習として葛川少年自然の家での宿泊体験をしたりする活動もあり、実際に触れたり見たりしながら学習することより良い森のイメージを膨らませることができる。さらに、実際に地域の人と関わりを作りながら学習を進めることで、地域の人の温かさに改めて気づき、自分たちが地域の方に温かく見守られながら生活を送っていることにもより深く感謝することができる。

以上のことから「豊かな森について考えよう」は、児童がよりよい郷土を創造する土台をつくるために適した題材であると言える。

## (2) 児童観

本学級の児童は、男子 11 名、女子 5 名の計 16 名と人数は少ないが、仲間内では自分の意見を主張しながらも互いを認め合い、過ごしている。しかし、自分から進んで挑戦したり、何かを良くしたいと意識的に動く児童が少ないが、経験を積み、知識を蓄え、自信を持つと主体的に取り組む姿が見られる。

生き物や自然に囲まれて育った児童が多く、森には興味関心も強い。本単元は、第 3 学年での「森と仲良くなろう」の学習と結びついているため、自信をもって取り組みやすくさらなる自己有用感を高めることができる。

## (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、学校林「だいらっこの森」・校庭にある「どんぐりの森」・地域の方が運営されている「青い鳥の谷」の 3 つの森を比較する。比較内容も児童に考えさせることで児童が主体となって探求することができる。このことを通して、それぞれの森の特徴や自然の活かし方・工夫などがあることに気づかせる。

次に、第 3 学年での「森と仲良くなろう」の学習に加えて、森林環境学習として「葛川少年自然の家」に宿泊体験する。ここでは、より自然に囲まれた生活をしたり、間伐材を使った工作を体験する。その中で、豊かな森について考えるきっかけやヒントになるだろう。

また、図画工作科とし自然からできるものを創作して、アートの観点にも魅力を感じてもらい、動く楽しさ以外の見る楽しさとして作品作りをする。

これらの経験をふまえた後に、地域の子どもから大人まで楽しめるような「だいらっこの森」の今後の・について具体的に話し合わせ、計画・実行させる。

実行も、子どもだけの力では難しい部分も多く、地域の方に協力いただく際に、「どうすれば相手に納得のいく説明ができるか。」を考えさせ、資料を作成し、プレゼンテーションする。

さらには、これらの活動を通して、地域づくりに直接貢献できたということ振り返らせ、さらに自分たちにできることはないだろうか話し合わせることを通して、これからの活動にもつなげていくようにする。

## (4) ESD との関連

### ◇本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- <連携性> 学校林をより良くするために、仲間や地域の人々、先生と協力していく必要がある。
- <責任性> 協力してもらおう地域の方にプレゼンを行うには人任せにしない、実践・行動する体験。
- <有限性> 地域や自分たちの場所の「なくなってほしくないもの」「これからもあり続けてほしいもの」をもう一度考えてみる。

### ◇本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

#### <進んで参加する態度>

自分は何かできるか、これまで学んできた知識や技能を生かして自主的に行動することができる。

#### <多面的・総合的に考える力>

学校林の様々な特徴や課題に対して、体験したり比較したりしながらアイデアを構想し、

あらゆる角度から自分事として考えることができる。

<未来像を予測して計画する力>

制作物と環境の調和、維持や管理、将来の計画や見通しをもって、立案することができる。

◇本学習で変容を促すESDの価値観

<世代内の公正>

自分たちだけでなく、地域の子どもから大人まで楽しんでもらえるものとは何かを考える。あらゆる人の「幸せ」な空間とは何かを予測することで、自分の寛容性や価値観を広げることができる。

◇達成が期待されるSDGs

目標11：まちづくり

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 学校林の環境や比叡平地域の自然環境の特色について理解している。(知識) ② 「だいらっこの森」にすむ生物や植物の状況を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法で調査をしたり、地域の森と比較している。(技能)	① これまでの自然学習や「だいらっこの森」の実情から地域の子どもから大人まで楽しむことができるための方策を考え、実行に向けての見通しを持っている。 ② 森づくりに携わっていただく地域の方に伝えたいことを、プレゼンテーションに表現したりしている。	① 課題解決に向けて、自分のできることに気づき、「みんなが楽しめる場所を作りたい。」という意識を持って探究活動に取り組もうとしている。 ② 地域の方にも、よりよい学校林の取り組みを納得してもらえるように具体的に発信しようとしている。

5 単元の指導計画 (全10時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1 (5h) 3つの森を比較し、それぞれの特徴や工夫などを見つける。	○「どんぐりの森」「だいらっこの森」「青い鳥の谷」を探索する際、自分の着眼点を決めさせる。 ○「真似したい。」と思った点を友だちと交流し、森づくりのイメージを想起させる。	○良さや違いを見つけようと考えている。友だちの意見や考えを聴く。(主体的) ○学校林の環境や比叡平地域の特色について理解する。(知識。技能)
2 (2h) 環境維持のための理解を深める。 ①葛川少年自然の家の所員による事前森林学習 ③ 葛川少年自然の家での宿泊学習	○4つ目の森として比較することを伝え、前時の学習と結び付ける。 ○自分たちが作った森を、存続させるための知識であることを押さえる。	○葛川の環境や特色について理解する。(知識。技能)

<p>3 (3h)</p> <p>① 地域の芸術家の方と一緒に、倒木を使ったアート作品を作成する。</p> <p>② 鑑賞する。</p>	<p>○森の中に飾るアート作品として、どんな気持ちにさせたいかをイメージさせる。</p>	<p>○自然素材の良さを生かして作品作りに取り組むことができる。(思考・判断・表現)</p>
<p>4 (3h)</p> <p>「だいらっこの森」をさらに豊かな森にするためにはどうすればよいか検討する。</p> <p>① 立案する。</p> <p>② 学級会にて話し合う。</p> <p>③ 学級会にて話し合う。 (地域ボランティアの方との検討会)</p>	<p>○一人で考えた後、グループでの対話を設ける。</p> <p>○ワークシートを使用。</p> <p>○地域の子から大人まで楽しめるという課題設定から反れないよう、随時確認する。</p> <p>○地域ボランティアの方に実現可能かどうかや、ビジョンを聞いて、現実的な捉えを促す。</p>	<p>○これまでの自然学習や「だいらっこの森」の実情から地域の子どもから大人まで楽しむことができるための方策を考え、実行に向けての見通しを持っている。(思考・判断・表現)</p>
<p>5 (8h)</p> <p>決まった案を地域の方に協力いただくための資料を作り、プレゼンする。</p> <p>① 実行するために必要な情報を確認する。</p> <p>② 計画案を作る。</p> <p>③ 計画案を見直す。</p> <p>④ わかりやすいプレゼンテーションにまとめる。</p> <p>⑤ 役割決めをし、伝える練習をする。</p> <p>⑥ 地域のボランティア・保護者の方に伝える。</p>	<p>○検討会に参加されていない方にも納得いただけるよう、表現を工夫する。</p> <p>○材料、時間、費用などの詳細まで明確にするよう伝える。</p> <p>○1度完成した計画案を、再度見直すことで考えを深める。</p> <p>○ICT端末を活用し、端的かつ明確に表現するよう手本を示す。</p> <p>○地域の方にお問い合わせする場合の話し方を考えさせる。</p> <p>○保護者の協力者も集う。</p>	<p>○課題解決に向けて、自分のできるところに気づき、「みんなが楽しめる場所を作りたい。」という意識を持って探究活動に取り組もうとしている。(主体的)</p> <p>○森づくりに携わっていただく地域の方に伝えたいことを、プレゼンテーションに表現したりしている。(思考・判断・表現)</p>
<p>6 (1h)</p> <p>① 地域ボランティアの方と協力し、森づくりを</p>		<p>○地域の方にも、よりよい学校林の取り組みを納得してもらえるように具体的に発信しようとしている。</p>

<p>実行する。</p> <p>② 完成後、地域へのPR、 する資料作りをする。 学校全体に告知する練 習をする。</p> <p>③ ふりかえり</p>	<p>○プレゼンとチラシの違いにつ いて説明する。</p> <p>○ワークシートに記入。</p>	<p>(主体的)</p>
--	--	--------------